

全身麻酔施行中に発症した緊張性気胸の1例

橋本 博史¹⁾²⁾ 三好 立¹⁾ 白日 高歩¹⁾
渡辺憲太郎²⁾

¹⁾ 福岡大学医学部外科第2教室

²⁾ 福岡大学医学部呼吸器内科教室

要旨：症例は57歳，男性．全身麻酔下に行った脳動脈瘤のクリッピング術施行中に，酸素化の低下を主とする換気不良状態を認めた．術後の胸部単純写真で左気胸を呈していたため，直ちに穿刺脱気を行い，胸腔内ドレーンを挿入し，翌日胸腔鏡下ブラ切除術を行った．全身麻酔中の気胸発症は主に気腹操作を伴なう腹腔鏡手術に伴うものが多く報告されており，そのメカニズムとして腹腔から胸腔内へ直接，あるいは後腹膜や皮下を経由して腹腔内へガスが侵入するものが考えられている．本症例は気腹操作を伴わない脳外科領域の全身麻酔中に発症したもので，ブラが偶発的に破裂した可能性が強い．本疾患における全身麻酔と気胸発症の因果関係は不明だが，全身麻酔中の気胸発症は稀とはいえ，時には重篤な結果を招く事があると予想され注意を要する．

キーワード：気胸，全身麻酔，術中発症